# 弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

社会福祉学部・社会福祉学科
川村　泰弘

作成日　2024年1月16日

## 1. 教育の責務

2023年（令和5年）度から弘前学院大学社会福祉学部・社会福祉学科に採用され、本年（2024年）で1年となる。
主として特別支援学校の教員免許取得に係る科目を担当している。

2023年度担当授業

| 科目名 | 学年 | 授業種別 | 開講学期 | 概要 |
|---|---|---|---|---|
| 特別な教育的ニーズの理解とその支援 | 2年 | 講義 | 後期 | ノーマライゼーションとインクルーシブ教育、障害特性と支援 |
| 障害者の生涯学習 | 2年 | 講義 | 後期 | 障害者の生涯学習の現況と課題 |
| 聴覚障害者教育総論 | 3年 | 講義 | 後期 | 聴覚障害者教育の教育課程と支援 |
| 重複障害者教育総論 | 3年 | 講義 | 後期 | 重複障害者教育の教育課程と支援 |
| 発達障害者教育総論 | 3年 | 講義 | 前期 | 発達障害者教育の教育課程と支援 |
| 障害と発達 | 1年 | 講義 | 後期 | 障害者の法的定義と発達理論 |
| 教育実習（特別支援） | 4年 | 実習 | 通年 | 特別支援学校における教育実習 |
| 教職実践演習 | 2年 | 演習 | 後期 | 教員としての実務に関する演習 |

## 2. 教育の理念

共生社会やインクルーシブ教育が叫ばれる現代社会において、人々には障害や年齢、性別などそれぞれの違いを受け入れ、互いに支え合い、認め合うことが求められている。また、障害のある人が社会参加できるようにするためには、社会が障害者を受容し一人一人の自己実現を保障できるようにしていかなければならない。学生にはこのような社会を形成し実現する当事者として、教育や福祉に関する専門的な知識と豊かな人間性、主体的な行動力を育んでいきたい。

1　障害者の教育に係る講義科目の場合

障害のある人への支援とは何かを具体的に考える。障害があって困っている人を積極的に手助けしようという気持ちは大切であるが、その人が支援を求めていなければ、逆にその人の自立を疎外していることにもなりかねない。障害のある人の人格や考えを尊重し、障害のある人と共に学び、共に育つ意識の醸成に努めることが大切である。

本科目では障害や支援に関することを学ぶとともに、障害児者をとりまく社会の課題を考究することを通して、共生社会に向けた意識を育みたい。

2　教職に関する演習科目の場合

講義で学んだ知識や理論を教育活動に活かし、具体的なノウハウを学ぶ場が教育実習であり、さらに実習の成果や課題を振り返りながら実践力を高める場が実習の事後指導である。本科目では、教育実習において特別支援教育やインクルーシブ教育を体感し、その成果や課題を学生相互で共有し協議する中で、教員に求められる対応力や人間力を高める。

## 3. 教育の方法

1　障害者の教育に係る講義科目の場合

それぞれの障害の特性と具体的な支援方法を学び、教育指導に活かせるようにする。現在は、特別支援学校のみならず、小中学校や高等学校にも多様な障害を有する児童生徒が在籍しており、実態把握の方法や基本的な支援方法を学ぶことで子どもの教育的ニーズに適切に対応できるようにする。講義を進める際は、具体的かつ重点的な内容を精選し、視聴覚教材やプレゼンテーションを用いて知識と実際場面を関連付けて学べるようにする。

2　教職に関する演習科目の場合

教育実習については、実習日誌や研究授業で作成した学習指導案を用いて、授業や学級経営等における振り返りを行う。子どもと向き合って支援したことや授業で作成した教材教具等について学生相互に情報共有し、ディスカッションを通して課題や改善点を探ってもらう。また、教職実践演習では具体的な問題場面の解析やロールプレイによる実演等を通して、気づきを深め、問題への対応力や豊かな人間性を培う。

## 4. 教育の成果

今年度から授業を担当することとなり、「授業評価アンケート」についてはすでに前任者が実施していたことから、今回は行わなかった。
したがって、アンケート結果を踏まえての成果は記載できないが、自身の授業を振り返ることで教育の成果を次のとおり考察した。

1　授業で工夫したこと
・すべての授業においてパワーポイントを使用し、絵図や表、写真、動画などを用いて障害特性や具体的な支援の手立てを説明した。また、ポイントとなる箇所にマーカーを引いたり、文字色を変えたり、穴埋めにしたキーワードを学生に問いかけるなどして、授業への集中を高め、理解を深めることができるように工夫した。
・「障害者の生涯学習」の授業では、文献を読んで予習シートに意見や感想をまとめ、それをグループワークで共有できるようにした。このような学習を毎回重ねることにで、予習したことを積極的に発言する学生が多くなった。
・授業の区切りに小レポートを課し、学生がそれまでの学習を振り返り、考察したことを述べる機会を設けた。また、学生が考察した内容を次の授業のはじめに紹介し、共有できるようにしたところ、課題意識を持ってレポートを書く学生が増えてきた。

2　授業で課題となったこと
・「障害者の生涯学習」以外の授業は、講義形式が多かったので、学生が自ら考えたり、ディスカッションで考えを述べたりする場面が少なく、学習が受動的になる傾向が見られた。
・授業によっては提示する内容が多くなり、内容間の関連付けや結論がわかりにくくなることがあったと思われる。
・特別支援学校での教育実習事前指導では、同じ時期に中学校や高等学校の教育実習と重なって公欠となり、模擬授業の演習を行わずに特別支援学校の教育実習に参加せざるを得ない学生がいた。

## 5. 教育の改善

1　授業方法の改善
＜わかりやすい授業＞
・授業のおわりに要点を整理したシートを示すなどして、学生がわかりやすい授業を心がける。
＜学生が主体的に学ぶ授業＞
・授業内容に応じて、教育課題について学生が考察し、ディスカッションを通して学びを深める場面を設定する。

2　授業内容の工夫
・授業間の内容を関連付けて学ぶことができるように、授業計画を工夫する。

3　教育実習の事前指導
・事前指導において、全ての学生が模擬授業を体験できるよう、中学校や高等学校での実習日程を見据えながら授業計画を立てる。

## 6. 教育の目標

短期的には、今年度の授業での課題を踏まえて、授業方法や授業内容の関連付け等について工夫していきたい。その結果の可視化については、 学生の授業アンケートを実施することにより、1～2年後を目途に達成できるようにしていきたい。中長期的には、学生が主体的に事前学修・事後学修に取り組むことを目指し、予習シートの作成や小レポートを効果的に導入して、継続した学びの習慣を形成できるようにしていきたい。

**【資料】**

1. シラバス
2. 定期試験結果
3. 課題レポート